

8月7日(火)

フェニックスの蘇り

聖書朗読 IIコリント 5:16~21

だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。 IIコリント 5:17

フェニックスの伝説にはいつも驚かされてきました。あまりよく知らない方のため説明すると、フェニックスは神話上の鳥で、誕生し、やがて死にますが、先祖の灰から再び生まれるというものです。あるいは、煌めく炎で焼き尽くされますが、その後その灰から再び生まれると言う説もあります。

フェニックスは神話ですが、その概念は、私たち人間の精神の回復力を象徴しているように思われます。例えば、戦争や自然災害で住まいの移動を余儀なくされる人々が世界中に多くいますが、彼らはフェニックスのように立ち上がり、かつての場所を取り戻し、失ったものから新しい命を見出しているのではないのでしょうか。

神様はそのご慈愛により、私たち人間に生まれ変わる道を示してくださいました。イエス様の福音に従うことがその実現への道です。神様のこどもたちにとって、それはフェニックスの蘇りの瞬間、つまり、バプテスマにより古い人は死に、イエス様によって新しく造られた者(Iコリント5:17)となることです。イエス様はニコデモに、『新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。』(ヨハネ3:3)と言っておられます。パウロの言うように、『神の恵みを無駄に受けないように』(IIコリント6:1)し、心を開きましょう。

讃美歌 332

祈り 愛するお父様。十字架上の悲しい出来事によって、私たちの救いを可能にしてくださったことを感謝します。あなた様の無償の贈り物を感謝します。イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ケニー・ウェストモーランド
テネシー州 セリナ

8月8日(水)

霊の恵みはすべて主のうちに

聖書朗読 エペソ 1:1~8

私たちの主イエス・キリストの父なる神がほめたたえられますように。神はキリストにあって、天にあるすべての霊的祝福をもって私たちを祝福してくださいました。

エペソ 1:3

エペソ人への手紙は、とても短いものですが、恵みの書簡と言われ、パウロの書簡のうち最も文学的であり、さらに、人の記した書物の中でも極めて崇高な書物とされています。エペソ人への手紙は、イエス様にあるすべての民を救おうとされる神様の永遠の目的が、次々と明らかにされていく内容となっています。

今日の聖書箇所は、神様の恵みを称える詩であり、パウロの詩篇と呼ばれています。パウロは、神様があらゆる霊的恵みをもって、イエス様にある私たちを祝福してくださったと語っています。神様は私たちが救ってください、イエス様が私たちの贖いとなり、そして、ご聖霊が私たちに聖別してくださいました。

様々な恵みの中でも最も大きなものは、霊的な恵みです。罪から解放された善い心を持つことは、空腹が満たされることなど比較にならない程大きな恵みではないでしょうか。また、イエス様とその交わりにある心の平安と喜び、そして、家族や友人の愛は、資産の保有あるいは健康であることさえ、比べものにならない大きな恵みではないでしょうか。私はこうした何よりも素晴らしい恵みを与えてくださるイエス様のもとにいたいと思います。私は心から悔い改め、イエス様のバプテスマにあずかり、イエス様のもとへ来ました。そして、その時からずっと、イエス様にあって生き、イエス様も私たちの内に住んでくださっています。イエス様にある恵みを神様に感謝します。

私たちが必要とする恵みはすべて、イエス様のうちにあります。老いも若きも、裕福な者も貧しい者もみな、お金や何らかの代価を支払うことなく、赦しと義認と永遠のいのちという、あらゆる恵みをいただくことが出来るのです。

讃美歌 525

祈り 神様。私たちが、私たちのために死んでくださった主のうちに生き、あらゆる霊的な恵みを主のうちに見出すことができるようお導きください。イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ヘレン・M・ヤング 1956

8月9日 (木)

光 を 得 よ

聖書朗読 エペソ 1:15~23

あなたがたの心の目がはっきり見えるようになって・・・知ることができますように。
エペソ 1:18

とてもイライラする事がありました。夕暮れ時に住宅街の道路の端に車を寄せて細かな地図を読もうとしていると、どういう訳か、少し前まではっきり見えていたものに目の焦点が合わなくなりました。それは後で気付いたのですが、老いが目に現れてきた証拠であり、多くの光を必要とするようになったという事だったのです。

こうした事は、私たちの肉体だけでなく霊的な面でも言えるのではないのでしょうか。パウロは、心の目には光が必要だとし、『あなたがたの心の目がはっきり見えるように』と言っています。何故でしょう。それは、光が十分であることによって、私たちは、永遠の真理を見ることができ、神様が私たちに期待感を持って将来を見るよう願っておられること、つまり、私たちに想像を超えた資産を受け継がせようとしておられること、そして私たちのために偉大な御力を働かせようとしておられる(エペソ1:18~19)ことを理解できるようになるからです。

けれども、この光は私たち自身が発することの出来るものではありません。それは、いのちを与える源から来る光であって、天地のあらゆる権威と時を超えた源(エペソ1:20~21)からくるものです。私たちがスイッチで点けるような光ではありません。この光は、歴史上たった一人のお方だけが、私たちに栄光の父を見させてくださるのに十分輝かせることのできる光です。

讃美歌 533

祈り お父様。あなた様の愛の光をもっと完全に見ることが出来るよう、私の心の目を開いてください。私の心の隅から隅までをあなた様の栄光ある光によって輝かせてください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ケリー・ミラー
テキサス 州ルボック

8月10日 (金)

イエス様のお心

聖書朗読 エペソ 1:15~23

イエスがある町におられたとき、全身ツァアラトの人がいた。イエスを見ると、ひれ伏してお願いした。「主よ。お心一つで、私をきよくしていただけます。」

ルカ 5:12

イエス様は出会われたすべてのツァアラトの人を清められたのではないことについて考えたことがありますか。また通りすがりに出会われた盲人たちも、すべての目を開かれたのではなく、悪霊に執りつかれた人のすべてから悪霊を追い出されたのでもありません。イエス様は、身体の不自由な人、盲人、病の人など多くの人をご覧になりましたが、彼らを変えずにそのまま通り過ぎられるということもありました。けれども、一方で、イエス様が手を置かれ「清くなりなさい」とおっしゃって癒された人々がいます。

これは何故かと思うでしょう。イエス様は、人によって困難な状況を変えることを選ばれたのか、あるいは、同じような状況にある他の人たちについては癒すことが出来なかったのか。そうだとすると、霊的な病にある私たちも、清めて下さいと願っても、顧みていただけない場合もあるのではないかと考えてしまうかもしれません。

けれどもパウロがいたら、「決してそのような事はない」と言うでしょう。イエス様がこの世に来られた目的は、失われた魂を見出し救われることです。イエス様が一時的な苦しみを癒して下さるのは、本来のご使命に付随するものであり、イエス様は、『わたしが来たのは、羊がいのちを得、またそれを豊かに持つためです。』(ヨハネ10:10)と言っておられます。

豊かないのちとは、苦しみから解放されたいのちということではありません。それは咎の責めから解放されたいのちです。このために、イエス様はいつも『わたしの心だ。清くなれ』(マタイ 8:3)と言われるのです。

讃美歌 521

祈り 主よ。私たちが霊の清めを求めてあなた様のもとへ行く時、いつも受け入れてくださることを感謝します。あなた様の血潮によって私たちを洗い清め、豊かな命を持たせてください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ケイ・バーナム・エヴァンズ
テキサス州 ラボック

8月11日(土)

変わることに心構え

聖書朗読 エペソ 4:14~16

言われた。「まことに、あなたがたに告げます。あなたがたも悔い改めて子どもたちのようにならない限り、決して天の御国には、入れません。 マタイ 18:3

私たちは娘が4歳のとき、それまで住んでいた所からほんの1キロ程離れた新しい住まいに引っ越したのですが、娘は怒ってその引っ越しをととても嫌がりました。大人になった彼女は今でも、客観的に見て良いと思う事でも、変化に抵抗する傾向があることを自覚しています。

たいていの場合、変わることは、その時抵抗したとしても、その新しいやり方が便利でより効率的であることがいずれ分かるものです(例えば、車や電子レンジ、コンピュータなど)。霊的な面でも同じことが言えませんか。「このやり方がこれまでやって来たやり方だ」あるいは「これまで長い間うまく行っていたのに、何故変える必要があるのか」といった言葉をよく聞くことでしょう。

パウロは、あらゆる『点において成長し、かしらなるキリストに達することができるため』(エペソ4:15)にと、私たちの成長を促しています。植物の成長を考えてみると、植物は全く同じ姿であり続けることはなく、変わりながら成長していきます。同じように、私たちのいのち、そして、教会も過去10年あるいは去年と比べてできえ、同じではありません。実を結ぶためには変化が必要です。私たちも、変化を伴わずにはイエス様のために生きることは出来ません。

逆説的ではありますが、私たちのクリスチャンとしての生き方は一貫したものでなければなりません。『イエス・キリストは、きのうもきょうも、いつまでも、同じです。』(ヘブル13:8)とあります。つまり、私たちは、必要な変化を伴いつつ、私たちの『主であり救い主であるイエス・キリストの恵みと知識において成長し』(Ⅱペテロ3:18)なければならないという事です。

讃美歌 329

祈り 親愛なる全能の神様。変わることに必要を悟らせてくださることを感謝します。私たちが変わることであなた様に喜んでいただけるよう、私たちをお導きください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ラニタ・ブラッドリー・ボイド
ケンタッキー州 フォートトーマス

8月12日(日)

代わりの策を有効に

聖書朗読 ピリピ 1:12~18

監獄の長は、ヨセフの手に任せたことについては何も干渉しなかった。それは主が彼とともにおられ、彼が何をしても、主がそれを成功させてくださったからである。

創世 39:23

物事をうまく進める人というのは、計画通りに事が進まない場合でも臨機応変に対応していくものではないでしょうか。

ヨセフは自分の意志に反して異国の地へ連れて行かれ、奴隷とされましたが、彼は神様に忠実であることによって、その状況を最大限に用いました。また、無実の罪で訴えられ投獄された時も、彼は神様に忠実であることを選びました。神様は、そのような人物を用いることの出来るお方であり、実際、ヨセフを大いに用いてくださっています。

ダビデはどうでしょう。彼は、神様のために美しい家を建てようとしたが、神様は、それは彼の息子に任せることであって、ダビデのなすべき事ではないとおっしゃいました。ダビデの志は、神様のみこころではなかったのです。そこで、彼は、息子ソロモンが神殿を建設するのに役立つ多くの貴重な資材を集めることとしました(Ⅰ歴代誌28~29章)。

また、中風の人を癒していただくとうとイエス様のところへ連れて行ったあの四人の仲間も、群衆のためにイエス様に近づくことが出来ないと分かり、家の屋根をはがし、穴をあけて、中風の人を寝かせたままその床をつり降ろした(マルコ2:1~12)とあります。彼らも難しい状況に臨機応変に対応しています。

さらに、獄中にあり旅に出られない状況にあったパウロは、多くの人々が恵みにあずかることができるよう手紙を書き、彼を護衛する親衛隊にも良い影響を与え、自分では出来ない働きを同胞に任せて送り出し、パウロ自身が礎を築いたけれども今は訪れることの出来ない教会のために祈ることによって、投獄という状況をも最大限に用いたのです(ピリピ1:1~11, 2:19~22)。

讃美歌 447

祈り お父様。私たちの計画が阻まれるとき、別の形であなた様が与えてくださる好機に気付かせてください。そして、それらをあなた様のご栄光のために用いさせてください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ダビデ・ギブソン
テキサス州 コマース